

2021 Race Report

2021 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第 2 戦

NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース JSB1000 クラス

会場:三重県 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース(1周 5.821km)

日時:4月22日(木)特別スポーツ走行

4月23日(金)専有走行

4月24日(土)公式予選・決勝レース1(14周) 天候:快晴 コース:ドライ

4月25日(日)決勝レース2(16周) 天候:快晴 コース:ドライ

観客動員数:16,500人(大会期間中)

ライダー:#28 東村伊佐三／マシン:BMW S1000RR

結果:予選 64台中 38位(ベストタイム 2'12.569)

予選 64台中 35位(セカンドラップタイム 2'12.628)

決勝レース1 44台中リタイア

決勝レース2 40台中 32位

日頃より信州活性プロジェクト Team 長野にご支援、ご声援をいただきまして、誠にありがとうございます。

信州活性プロジェクト Team 長野は全日本ロードレース選手権と鈴鹿 8 耐に参戦することで、全国そして世界へ長野県を PR することを目的として活動しています。

今大会は全日本ロードレース選手権の第 2 戦ですが、決勝レース 1 は『2021 FIM 世界耐久選手権 “コカ・コーラ”鈴鹿 8 時間耐久ロードレース 第 43 回大会』の出場権利をかけた 8 耐トライアウト 1st ステージとしても位置付けられており、両カテゴリーに関連する戦いとなります。

信州活性プロジェクト Team 長野は 8 耐トライアウトの登録もしているため、エントリー全 67 台中 42 台の 8 耐トライアウト勢のなかから選抜される 18 チームに入ることを目標に参戦し、全日本ロードとしてはポイント獲得を目指しました。



■公式予選

ドライコンディションで行われた木曜日の特別スポーツ走行、金曜日の ART 総合では 2 分 13 秒 421 がベストタイムでした。マシンセッティングの方向性は見えてきましたが、パワーが足りない状況なため打開策を模索しながら土曜日の予選に挑みました。

木曜日の走行から良い天気が続いており、迎えた予選当日、雲は多いですがドライコンディションで A グループの予選がスタートしました。A グループでは赤旗中断があったため 3 分遅れの 9 時 28 分に 33 台の B グループ予選が始まり、スタートとともに東村選手がコースイン。いきなり 2 分 13 秒 402 と今週末のベストタイムを記録すると毎ラップタイムを縮めていき、その 3 周後に 2 分 12 秒 628 のセカンドラップタイムをマーク。次周にピットに入リニュータイヤに交換して 2 度目のアタックに向かいました。

2 度目のアタックでは 2 分 12 秒台を 3 連発記録し、2 周目に 2 分 12 秒 569 とベストタイムを出し、合計 11 周走りでピットに入りました。レース 1 では 38 番グリッド、レース 2 は 35 番グリッドを獲得しました。



■決勝レース 1

予選が午前中に行われ、午後にレース 1 が開催されました。雲は厚くなりましたが引き続きドライコンディションでのレースとなりました。レース 1 では、完走し鈴鹿 8 耐の出場権利を得ることを目標に走りました。

13 列目 38 番グリッドから 14 周のレースに挑みましたが、スタートで出遅れてしまいオープニングラップでひとつポジションを落とし 40 番手に。混戦のなか冷静に状況を見ながら走りつつ 2 周目にはポジションを回復して 39 番手に浮上しました。しかし、3 周目にデグナーカーブを立ち上がった際に、転倒していた前方のライダーの影響を受けスピンしてしまい多重クラッシュに巻き込まれました。

レースの復帰を試みましたがコースオフィシャルに止められ、敢え無くリタイアすることとなりました。大クラッシュでしたが、ライダーに怪我はありませんでした。



■決勝レース 2

レース 1 の転倒でマシンに大きなダメージを受けましたが、土曜日は夜まで修復作業を行い、どうにかレースを戦える状態まで戻しました。前日までの乗り味とは変わってしまいましたが、午前のウォームアップ走行をアジャストする時間に充て、午後のレース 2 に挑みました。

日曜日も天気は良く、ドライコンディションで 16 周のレースが開始しました。11 列目 33 番グリッドからスタートしましたが、1 周目に 36 番手にポジションダウンしてしまいました。

そのままレースが進み、上位 1 台のマシントラブルで 6 周目に 35 番手となりましたが、8 周目に抜かれ再度 36 番手をキープ。ところが、タイヤマネジメントが功を奏して、グリップが落ち始めた 9 周目から 3 周連続でひとつずつポジションを上げ 33 番手に戻すことができました。また、10 周目に 2 分 14 秒 929 とこのレースのベストタイムを記録しています。

そして 15 周目にも 32 番手とひとつポジションを上げることができ、最終ラップにはブルーフラッグによりトップを快走する中須賀克行選手を抜かせて 1 ラップダウンとなりましたが、32 位でフィニッシュすることができました。

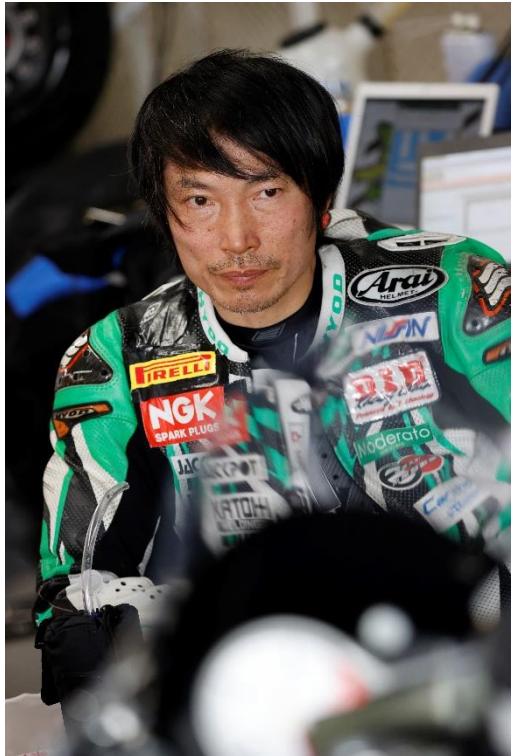


■東村伊佐三コメント

「決勝に向けて、タイヤマネジメントができたタイムを落とさないように、アベレージを狙ったセッティングをしていました。目標としていたタイムは出せませんでしたが、予選で2分12秒台に入りさらに課題が出てきたので、新たに方向性が見えてきたところです。これ以上攻めるとリスクがあるので現状はこのタイムです。

レース1はスタートを失敗しました。混戦だったので注意しながら走りましたが、前方でアクシデントがあり避けきれずに巻き込まれました。リスクがある位置を走っていたのは反省点ですが、今回は運がありませんでした。チームで8耐トライアウトの通過を目標として力を入れていたので、リタイアしたことが悔しいです。

日曜日は足回りとエンジンのセットが違うものになったので、ウォームアップで体に馴染ませる作業をしました。大きな問題はありませんでしたが、レース2では攻められるほどセッティングが決まっていなかったので、タイムを上げることはできませんでした。それでもタイヤマネジメントをしながら走行したので終盤は何台か抜くことができました。最終ラップでブルーフラッグを振られ周回遅れになりましたが完走することができました」



■武居監督コメント

レース1では不運なことに、レーシングアクシデントによるクラッシュに巻き込まれてしまいました。

マシンは大破しましたが、ライダーが無傷なのが幸いでした。

これによりトライアウト通過の夢は絶たれてしまった事で正直怖気づき、レース2はキャンセルしようとすら考えましたが周囲の諸先輩のアドバイス、そして「今やれる事をやろう」という周囲の諦めない気持ち、そして翌日まで届き続けたファンの「頑張れ」「諦めるな」の後押しの声に押され、レース2を戦う気持ちを持つことができました。

スタートをし、チェックを受けることが「当たり前」と言われるレースの世界ですが、その当たり前がいかに難しく尊い事なのか再度思い知りました。

たくさんの人達の思いを糧に走れたレース2は、今までで一番ずつしりと来る「完走」でした。

私達を支えてくださった全ての方に感謝します。

